

緊急時用浄水装置は

「飲料水・生活用水」の確保に役立ちます。

過去の大地震における被災経験者へのアンケート結果によりますと、まず必要になったものは「水」であり、最も困ったことは「水の不足」に関することでした。災害時に最も必要なのは「飲み水」ですが、手洗い・洗髪・トイレの流し水・洗濯などの生活用水としても「水」は不可欠です。緊急時用浄水装置があれば身近な水源から、必要な時に必要な量の水を造ることができ、大切な水の継続確保とともに水不足の解消が期待できます。

..... **DASCO式緊急時用浄水装置の特長**

- いざという時、誰でも簡単操作で安全な飲料水・生活用水が得られます。
- 小型軽量で可搬性に優れ保管場所を選びません。
- 主要部品にステンレスを採用しており耐久性に優れ
長期間の使用が可能です。
- メンテナンス性に優れ、通常の使用に工具は不要です。
- 維持管理が殆どかかりません。
(消耗品は薬品程度です)
- 全国9400台の豊富な納入実績。
(2015.8 現在)

DCF-1HLII 1m³/時 手動(自動)式

手動式で大きい過容量が売り物です。
メンテナンスフリーで外部圧力水や消防ポンプとの接続により2m³/時の自動式に早変わりします。
消耗品として、3回分の予備エレメント、消毒用薬品(約200m³消毒可能)を標準付属しています。





▲長野県西部地震 王滝村で(昭和59年9月)
緊急時浄水装置を飲料水・生活用水として活用



▲雲仙普賢岳噴火時 諫早市と深江町で(平成3年6月)
緊急時浄水装置を飲料水・生活用水として活用



▲阪神・淡路大震災時 北淡町で(平成7年1月)
緊急時浄水装置を飲料水・生活用水として活用

DASCO式 緊急時浄水装置

は、
災害現場で実際に使われています。



▲東日本大震災 宮城県松島町で(平成23年3月)
プール水を緊急時浄水装置で処理し、飲料水として活用

被災地へ水を支援続く

被災地へ水を支援続く

宮城県気仙沼市で(平成23年3月)緊急時浄水装置を飲料水・生活用水として活用
「水道産業新聞」平成23年3月14日掲載

▲東日本大震災時 茨城県河内町で(平成23年3月)
緊急時浄水装置を飲料水・生活用水として活用
「水道産業新聞」平成23年3月14日掲載

■防災訓練でも活用されています



防災訓練で緊急時浄水装置を初めて見た人や子供たちでも、簡単に扱うことができます。

牧之原中生が防災体験学習

水浄化法など学ぶ

水浄化法など学ぶ

「静岡新聞」平成23年6月8日掲載

▲「静岡新聞」平成23年6月8日掲載

浄水器、離島の命救う

水を科学

宮城県気仙沼市で(平成23年3月)緊急時浄水装置を飲料水・生活用水として活用
「静岡新聞」平成23年4月30日掲載

【×モ】 県防災用品普及促進協議会は、2009年に県内の防災用品メーカーや販売店が集まって発足した。11年3月末現在、39社が加盟し、県民の防災意識啓発や防災用品の普及促進に務めている。東日本大震災では、県が支援を担当中の若手県に水4tを無償提供した。協議会は加盟各社の大震災後の対応を検討し、東海地震対策に生かす予定。

▲東日本大震災時 宮城県気仙沼市で(平成23年3月)
緊急時浄水装置を飲料水・生活用水として活用
「静岡新聞」平成23年4月30日掲載